



山村振興のキーポイント

小さな集落でも、一丸でやることで活性化につながる

【新田集落から学ぶ】



リーダーは一人ではない

複数のリーダーがいることも大切

地域振興にはリーダーが必要であるといわれている。しかし、リーダーに頼りっぱなしだと、今年できていたことが、来年はできないということにつながる。また、リーダーには、まずは行動あるのみといった人から、慎重に考え着実に実行していくリーダーも必要である。そのため、本NPOでは理事などの役員も交代で、皆がリーダーになれる仕組みをつくっている。

共同精神の醸成

共同精神を磨く“場”を設定する

過疎・高齢化の進展、また価値観の多様化などから人と人のつながりが希薄化しているのは山村地域でも同じ。そのような中、コミュニティを形成していくためには、集落住民が共に集まり、活動をする場を設けていくことも必要である。人形浄瑠璃の上演もカルチャー講座の開催も、同じ思いの人が共に活動を行う重要な“場”であり、それ自体の活動が赤字でも続けていくことが大切である。

文化交流の意義

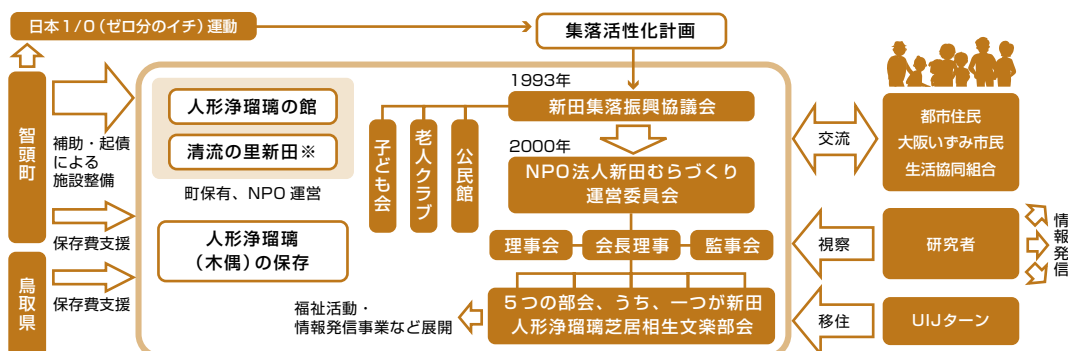
外部との交流は、自分たちの地域の価値を再発見するきっかけ

文化的・学術的価値は高いが、それ自体はお金にならない(なりにくい)ものとして地域に伝わる歴史や伝統文化がある。しかし、これら歴史・文化は、外部の目・外部との交流を通じて、自分達では何でもないと思っていたところが評価され、そこからイベントによる集客などによって地域振興の価値をもってくる。元気のない集落にあっても、外部からの評価によって、さらに良いものにしていこうという向上心、地域への自信が生まれてくる。



活用した組織と制度

行政が整備した施設を、NPOが運営



※山村振興等農林漁業特別対策事業（農林水産省）を活用

人形(でこ)は三人一組の心が一緒にならないとまわらない、村づくりも同じ！

新田むらづくり運営委員会 岡田和彦 氏



新田集落は、20戸たらずの小さな集落です。このまま、何もしなければ衰退していきただけであり、集落住民が地域振興に向けて活動し、挑戦していくこと、その積み重ねが何よりも大切だと考えました。

国は合併によって大きな自治体をつくろうとしています、そうすると新田集落のような周辺地域の各種事業や施策は、中止・後回しになり、置いていかれるとの危機感をもちました。そこで、財政基盤のしっかりした、小回りがきき、すみずみまで手の届く「小さな自治体」をつくり、公共工事や、福祉等、本来行政にお願いすることをできるだけ自分たちでやってみようと考え、集落まるごとNPO法人「新田むらづくり運営委員会」を設立しました。

「新田むらづくり運営委員会」で最も大切なこ

とは、集落住民が一丸となって、共同精神、助け合いの心で活動を進めることです。

その共同精神、助け合いの心を醸成するものとして新田人形浄瑠璃芝居の上演・伝承を行っています。芝居に使う木偶人形は、3人1組で1体を操るものであり、3人の心が一つにならないとうまく操ることができません。また、人形浄瑠璃芝居の演題一つ一つをとっても、覚えるのに時間がかかるものですが、皆が一生懸命練習をして上達し、町外などでも上演できるようになりました。

村づくりも同じです。皆の心が一つになって、取組を進めることで、小さな集落でも何かができるという自信につながります。そして、助け合いの精神は、農地を守り、山を守り、そして、福祉などの活動へもつなげていくことができるものです。



今後の課題・展望

後継者育成・運営資金の確保・就労の場の確保

目標1

伝統芸能の後継者育成

UIJターンの人が入ってきているものの、高齢化やITの時代とともに伝統芸能の担い手が減少している。伝統芸能の担い手育成も、地域づくりの担い手育成にも時間がかかるものであり、その育成が急務である。

目標2

地域財産(ハード)の更新資金の確保

町で整備してもらった「人形浄瑠璃の館」などの更新の資金や経理の電算化など、活性化のために必要な資金の確保が求められ、厳しい事業運営の中から、わずかながら「集落活性化基金」の積立を行っている。

目標3

就労の場の確保と1億円の収益確保

1世帯500万円の所得があれば生活できる。集落全体で20世帯とし年間1億円があれば皆が生活できる。そうすれば外に出なくて済む。就労の場の確保こそが将来の集落の維持・発展に何よりも必要である。

関連・関係する団体

智頭町企画財政課（日本1／0運動） 〒689-1402 鳥取県八頭郡智頭町智頭2072-1 Tel：0858-75-4111